

外来でがん化学療法を行った延べ患者数

概要

がん化学療法(抗がん薬治療)はがん治療の大きな柱の一つで、そのほとんどは外来で行われています。外来化学療法センターは、がん化学療法を安全に行えるよう整備された施設です。

外来化学療法センターを利用して抗がん薬治療を行なった患者数、および、同センターで起こった患者さんにとって好ましくない事(「有害事象」といいます)の件数とその内訳を算出しています。

がん化学療法を行った患者数、そこで起こった有害事象とその内訳を共有することで、安全ながん化学療法を遂行することができます。

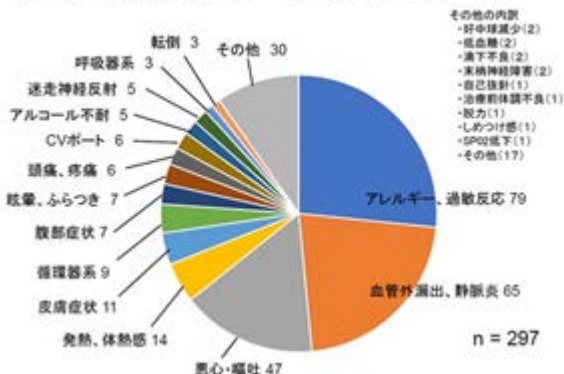
実績



診療科別 利用者割合 (2022年)



外来化学療法センター有害事象 (2022年)



共有/フィードバック方法

毎月化学療法センター運営委員会で報告し、共有されています。特に教訓的な有害事象は「今月の事例」として紹介し、マニュアルの整備等に役立てています。

解説

毎月 1000 件以上の方が、外来化学療法センターでがん化学療法を行っています。利用している診療科も多岐にわたり、ほぼすべてのがん種のがん化学療法に対応しています。起きた有害事象を共有することで、より安全ながん化学療法を行うことができます。

外来化学療法センターで起きた有害事象は把握できていますが、帰院後に起きたものをすべて把握できていないのが課題です。